

# 栄光

説教

## 『主にある不屈の歩み』

マタイによる福音書20章17節～19節

聖学院小学校・幼稚園チャプレン 中村謙一

説教・「主にある不屈の歩み」  
中村謙一教師…1  
特集・  
2023年の抱負…2  
長老のファイル…5  
説教・「神の御言葉通り」  
久保哲哉教師…6  
説教・  
「私たちの造り主」  
岸俊彦牧師…7  
牧師の書斎から…8

経堂北教会の創立記念礼拝にお招きくださって心から感謝いたします。そして創立85周年、本当におめでとございます。

経堂北教会は、1933年10月に経堂の村田正亮牧師宅で開始された聖書研究会に起源を持ちます。それは村田正亮牧師の開拓伝道への熱い祈りによって始まりました。そして、1937年11月14日には「日本基督教会経堂伝道所」となって芽を出し、同年の12月19日には「経堂伝道教会」として花を咲かせ、正式に歩みがスタートしました。

1937年と言えば、当時の日本政府と軍部は軍国主義に支配され、7月7日には盧溝橋事件で中国と戦争が始まっていました。その前年には2・26事件が起こり、

その影響で日本社会では思想統制と弾圧が強まってきました。米英との対立は太平洋戦争へと日本を導き、米軍のB29爆撃機が日本全土に空襲を始めました。この

空襲のため、「44年11月12日には、警報のため礼拝は行われませんでした」と週報357号には記録されています。戦中の思想弾圧は極めて、日本基督教団の全ての教会で、君が代斉唱、国旗掲揚、宮城遙拝が強制されました。このようなどい思想弾圧を受けても、当時の経堂北教会は屈服することなく礼拝を続けました。

今日の聖書箇所はマタイによる福音書20章18、19節です。神の御子、主イエス・キリストは、エルサレムへ向かって旅をし、十字架の道を歩んでいました。主イエス

も、エルサレムで処刑と死が待っているにも関わらず、その恐怖に屈することなく、「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く」と告げて、弟子たちを大変驚かせました。それはまさに不屈の歩みでありました。逃げることもできなかった。主イエスは逃げませんでした。これは歩む途上での三度目の受難予告でした。

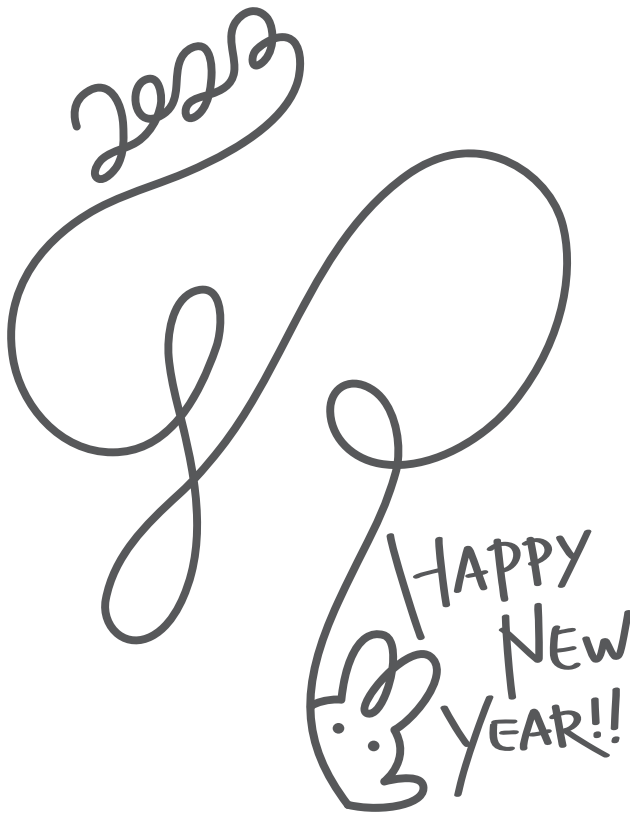
ここでは、明白に「十字架につけるため」と書かれてあります。このことは、主イエスも十字架の木に手と足を釘で打ち付けられて無力とされて動けなくなり、自由を奪われ囚われ苦しまれ死ぬことを意味していました。実際に、そのようなになりました。この恐怖と闘いながら主イエスは不屈の歩み続けました。主イエスは、全ての人の罪を赦して神の御国へ入れるために、十字架の上で、御子の尊い命を献げ祈ってくださいました。ここに神の愛が示されています。そして、主イエスは、苦しみに耐えられ、十字架の死に勝利され復活されました。主イエスは死後3日目の朝によみがえられ、墓

のドアを開け、自由になったのです。この主イエスの復活こそが、主を信じる教会の歩みの勝利の根拠です。

やがて、大日本帝国は滅び、思想弾圧はなくなり、民主主義の日本へと国と社会は変えられました。「今日の聖日から空襲の心配なしに礼拝を守ることが出来る」と村田牧師は、敗戦後4日目の8月19日の日記に書いています。憲兵も特高も礼拝をチェックすることがなくなりました。国民的儀礼を礼拝前に押し付けられることもなくなりました。民主主義日本の新しい憲法では信教の自由が保障され結社と個人の思想・意見の自由が保障されました。それはまるで「死から命へと移される」変化のようではなかったでしょうか。もう、自由に礼拝できるのです！そして、主にある不屈の歩みはその後も経堂北教会で続きました。その歩みは今日で85周年目を迎えました。あなたも天へと続くこの不屈の歩みに洗礼を受けて応え、神の子どもとして参加しましょう。主の御名が賛美され、高められますように。

# 2023年 の抱負

新しい年を迎えました。  
コロナ禍は続いています、  
感染対策をしつつ、  
少しずつ様々なことが再開しています。  
そんな今年のあなたの抱負を  
教えてください。



祈りに覚えられる

小田瑠恵

社会人になって5年目、抱負を聞かれると、やはり真っ先に考えるのは仕事のことです。

私は幼稚園で働いています。2022年は、幼稚園や保育園が何かと話題になりました。そのほとんどが良くない話題でした。皆さんも報道を見るたびに悲しい気持ちになったのではないのでしょうか。私も同じです。とても辛く悲しい気持ちになりました。私の働いている幼稚園の保育者たちは、皆とても一生懸命で、子どもたちのことが大好きで、一人ひとりに寄り添いながら毎日保育をしています。全国にもそういう保育者は沢山いるのに...と思うと、報道を見るたびに悔しい気持ちにもなります。子どもたちの笑顔と希望で満ちているはずの保育の現場の光が失われていくようです。

このような暗いニュースのたびに義理の母(栗平教会の高橋圭子

牧師)が連絡をくれ、私を励ましてくれました。また、ふとした時に連絡をくださる方やクリスマスカードを送ってくださる方、問安委員の方は、週報や『栄光』と共にお手紙を送ってくださりました。その皆さんに共通しているのは「いつも祈っています」と言っている(書いて)くださることです。いつも私たちのために祈ってくださいる方がいることは本当に心強いことです。神様がいつもそばにいて、私たちのことを守ってくださいていることを感じ、励まされます。

2022年、私たちは本心に守られていたと思います。自分だけでなく、幼稚園の子どもたちも大きな事故や怪我なく過ごすことができました。子どもと元気に遊べたこと、その日一日を無事に終えられたことに心から感謝する毎日でした。

2023年、具体的な抱負をあげるとキリがないのでここでは書きませんが、どのような時も神様がともにいてくださることを信じ、日々丁寧に、健康に過ごしたいと思います。子どもたちのいるところが希望で溢れますように。

## 足腰を鍛え、聖餐式に出席

加用真実

現役を退き、現在は週3日の勤務。10年前までは当然のように年が改まれば新年の「抱負」を考えていたことに今気づかされ、ハツとして自分の「驚く」。

自分では洗滌の75歳と思つてはいるが（ワイフからは「年寄りの冷や水」と）いつの間にか思考回路の老化に気づかされ、またもや「ハツ」とする。この度は良い機会を頂いたので、「今年の抱負」をアクションプランとして組み立てたいと思う。

まず「抱負」とはどのような意味か。過去には深く考えもせずに用いてきたこの言葉であるが、辞書には『抱負・普段からこのようにやってみたいと心に思つている・考え』とある。

ここで注目したのは「普段から」というフレーズ。そうか、夢との違いはここにあるのか（ちなみに夢は、「実際には有りそうにも思

えないが、万一実現すればいいなと思つている事柄」だ（そうです）。

そういうことであれば沢山あるが、待てよ。75歳の大人が今更「健康第一や、趣味を極める」では寂しすぎる。もう少し格調高い？抱負はと。そこで手元の聖書（注…

いつも手元にあるわけではありませんが、これは言葉の拘です）を開くと『あなたがたはこの世に做つてはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい』（ローマの信徒への手紙12・2）。そう「何が善いことであるか」。勝手な解釈、こじつけと言われようと外圧にめげず、ここに注目。

## 『抱負 アクションプラン』

第3主日は「必ず」礼拝に出席し聖餐を共に受ける（よう努力…少々弱気が）。それにはまずワイフの杖となるよう健康に留意し、「足腰を鍛える」。ここは「月並み」に聞こえるかもしれぬが必須である。

## 2023年の抱負

…近況報告

志磨恭子

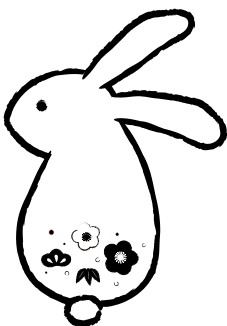
2022年の後半は医者通いが増えました。予定していたとは言え、30年以上抱えていた初期の白内障がすぐに手術を受けなければならぬところまで進み、11月に手術になりました。不便なのは運転をしばらくできなかつたこと。

その間に母が熱を出してホームから病院に入院（1週間）。日にちが重ならずホッとしました。2週間あけて、もう一方の手術も受け、よく見えるようになり、運転も解禁。そして、母がまたホームで転倒、今度は骨折ということで手術になりました。こちらも無事終わり、この後、病院でリハビリです。そして、私も転倒、整形外科で肋骨にひびが入っていると言われました。こちらはおとなしくしているしかないので、もうバタバタせずにクリスマスを迎える予定です。

2023年の抱負はそういうわけで、私も家族もとにかく元気に過ごしたいのひと言です。

さいわい新型コロナにはかかることなく、きれいな景色は旅に出た方々のインスタグラムで楽しみ、世田谷区近辺をうろろろして過ごしていますが、これがいつまでも続くわけではないし、教会も2年半後にはいろいろと変わるようになるので、健康に過ごせることが何よりです。

新年初めの原稿で医者通いの話ばかりで申し訳ないのですが、自分の体力と相談しながら、毎週礼拝に出席できるように毎日を整えて過ごしたいものです。そして、自分にできることを続けていきたいと思ひます。



## 個々の力を合わせて

圓山野花

コロナウイルスの猛威に、まさか3年も振り回され続けることになるとは、ニュースで豪華客船を眺めていた頃には想像もありませんでした。私は在宅医療に関わる仕事に就いており、コロナ禍は目の回る忙しさの中で、引き受けきれない陽性者の往診の依頼が舞い込み続けました。私自身、夏の終わりに罹患し、夫への二次感染を半ば覚悟し怯えつつ自宅療養を余儀なくされました。幸い夫は感染を免れたのがせめてもの救いでしたが、その後も長く後遺症に苦しむことになりました。自宅で療養している間には保健所やクリニックからの電話やメールに、どれほど助けられ励まされたことか。また、自分が実際に思ったことで、関わる患者様やそのご家族様が何を求めているのか、どこに配慮すべきかに気付くきっかけになりました。漠然と見ていると気付かな

くても、姿勢次第で発見できることがあるということでしょうか。

そしてコロナウイルスと過ごす4年目の冬。師走の声を聞く頃から、しばらく静かだったコロナの往診依頼の電話が再び鳴り始めました。人は勝手なもので、第7波の時に確かに身に付けたはずの往診に関わるノウハウですが、東の間コロナが下火になった途端にその荷物の重さや扱いを忘れていたのです。しかしそこは日頃のチームワーク。私が立てた段取りをきちんとマニュアルとして整えておいてくれたメンバーがいました。助かりました。正確なマニュアルさえあれば全てがあつという間に蘇り、葉の手配や医師、看護師の依頼も的確にこなせました。

## 青年会修養会

原 良介

明けましておめでとうございませう。今年も王の恵みが皆さんの上に豊かにあるようにと祈ります。さて、ここ数年、年初めに立てる計画や目標のいくつかは、コロナ禍の影響で積み残されています。教会関係の内容も多く、教会愛餐会は、子どもたちのためにも早く復活できればと願います。加えてぜひ実現したいのが、青年会修養会です。青年会の活動人員は約10名、そのうち半数が大学生ですが、学生生活にもコロナ禍の影響が色濃く出ています。昨夏、高校野球優勝校の監督の「青春って、すごく密なので」との言葉が話題になりましたが、大学生もまた然り。オンライン授業に、サークル活動も制限、ではやるせない。大人だけと社会人ではない時期”にしか経験できないことには、大きな価値があります。そし

て、この時期に同世代の信仰に触れ、将来への不安や悩みを語り合い、祈り合う密な時間もまた、人生に大きな意味を与えます。社会人になると何かと教会から遠ざかりやすいからこそ、彼らのためにも、教会のためにも、何とか今年青年会修養会を開催したいです。ただ、決して手をこまねいていく訳ではありません。オンラインを活用すれば、離れていても青年会は開催できるし、経堂北教会の青年ネットワークは全国に広がっています。定期的にオンライン青年会を開催し、狩野進之佑牧師や松浦子基・菊地信行元神学生、遠方の青年たちとも、顔を見ながら近況を報告し合い、祈りを合わせています。この繋がりを活かして、それぞれの地を訪ねながら青年会修養会を開催できれば、最高の成果でしょう。

どうか青年たちのことも、祈りに覚えてくださればと思います。「青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。苦しみの日々が来ないうちに。「年を重ねることに喜びはない」と言う年齢にならないうちに」(コヘレト12・1)

## 2023年の抱負

文 弘元

今年は去年より一層他者を思いやる心を持つことのできる人間になりたいと思っている。思えば自分は様々な人の「理解」によって支えられてきた。生きていくことは、ひとり自分のことだけを考えると

できるものではなく、生まれた時から多くの手を差し伸べられて生きていくのだということをおぼえてはならない。

自分にとつてのあたりまえが他者にとつてのあたりまえではない。自分勝手な考えだけを頼っていると、多くの場合衝突が起きる。そしてその時に初めて自分と他者は違うんだと相違に気づくはずだ。常に視野を広くして辺りを見渡せる力は、学校や、社会に出ても常に求められている気がする。お互いが快く笑顔で過ごせるためにはどうすればいいのか逆算するように考えていると、他者を思い合える心を持つことがなにより大

切であるかを学ばされるように感じるのである。「自分の場合はこう」だけど「あの人の場合はこうなんだ」と優しい眼差しで見届けられることは自分を理解すること、他者を理解することにつながる。分かり合うことは難しいかもしれないが、分かち合うことは誰にでもできるはずだ。常に意識を張り巡らせるのではなく、ふとした時に広い心で他者を気遣える人に心から憧れるのである。

そしてもう1つの抱負としてはパソコンを上手く使いこなせるようになりたいと思っている。中学含め高校時代もパソコンとはまるで疎遠だったために絶賛字びの途上にある。上手く使いこなせるようになる以前に最低限の力を付ける必要があるため、もはや避けては通れないのだ。父は巧みにパソコンを使いこなせているように見える。毎年この時期になるとパソコンを使用して知り合いや親戚などに手紙や年賀はがきを書き起こしているのだが、いつもその完成度に驚かされるのだ。これはぜひまねしたいなど、パソコンを上手に使いこなしたい自分である。

## 長老のファイル

あけましておめでとうございませう。2022年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症は終息の兆しが見えず、ロシアがウクライナに侵攻、急激な円安により物価は高騰、凄惨な事件や事故、災害も多発し、辛く悲しいことの多かった1年でした。しかしFIFAワールドカップでの日本代表の活躍は気持ち明るく元気にさせてくれる出来事でした。

12月24日は土曜日だったので、クリスマスイヴ礼拝は17時からとしました。またクリスマス礼拝は前年と同様、午前と午後の2回行いました。お天気にも恵まれ、多くの方々と一緒にクリスマスをお祝いすることができました。

2022年も経堂北教会ではできる限りの対策を実施、主日礼拝を1度も休むことなく続けられました。あらためて神様に感謝します。一方で教会員やそのご家族に陽性となった方が出てきており、もはやどこで感染してもおかしくない状況が続いています。

12月の長老会で、西南支区で接手を受けたのは1名と報告がありました。以前、出席した接手礼拝は、いずれも複数の方が接手を受けられました。コロナ禍前だったので、大勢集まってお祝いしたことを思い出すと、牧師になりたいと思う人が減っていることを実感しました。東京教区の正教師試験受験者の平均年齢は46歳とか。召命を与えられる年齢はそれぞれとはいえ、やはり若い世代の牧師育成がより一層の急務であり、神学校は勿論、教会も課題として共有しなければならぬと思いました。

コロナ禍に加え高齢化が進み、礼拝への出席が困難な方が増えています。現任陸養会員183名のうち、昨年4～11月の間に礼拝に1度でも出席された方は104名。2年前と比べ40名程減少しており、教会財政にも影響が出ています。

新年から暗い内容の話ばかりになってしまいました。2023年を迎え気分一新、明るいニュースが次々出てくることを祈りたいと思います。8日の成人祝福式には、一人でも多くの若者が出席されますように。(尾藤美紗子)

## 説 教

## 『神の御言葉通りに』

ルカによる福音書1章26節〜38節

聖学院中学校高等学校教諭 久保哲哉

聖学院中学校高等学校の使命は何か。聖学院の名付けの由来について、初代校長の石川角次郎は「我らは君が学園を『聖学院』と名づけた。聖学とは聖人の学である。聖人の学とは、聖人（主イエス）の教えを学ぶばかりでなく、学んで聖人となるのである。そうであれば本校の理想は聖人を養成することである」と語りました。ここから聖学院は毎朝の礼拝によって、この世の価値基準や思考法とは異なる、愛に基づいた聖なる価値観をもって生きる個人を養成することを使命としていることがわかります。

ただし、これは聖学院という学校だけの使命ではありません。教会の目的は十字架と復活の福音を宣教し、人々に洗礼を授け、キリストを土台とする信仰者を生み出すことです。キリスト者は聖霊の力を身に受けることで、神を愛し、隣人を自分のように愛する者としての歩みを始めます。言い換えれば、聖なる者として「地の塩、世の光」（マタイ5：13、14）として、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈り」（マタイ5：44）る者として変えられていくことを目指すのです。ならば教会の使命も、洗礼によって聖人を創り出すことだといってよいでしょう。キリストを土台とする者は「主における聖なる神殿となります」（エフェソ2：21）。聖なる者として歩み出すのでなければ「キリストの死は無意味になってしまいます」（ガラテヤ2：21）。聖なる者を目指して生きることは、すべての信仰者の目標です。そこで主イエスの母マリアが「なぜ聖母と呼ばれるのか」をみることで、聖なる者として歩む秘訣を見出したいのです。

天使ガブリエルはヨセフのいいなすけであるおとめマリアに告げました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」（ルカ1：28）、「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む」（ルカ1：35）、「神にできないことは何一つない」（ルカ1：37）。そこでマリアは天使ガブリエルの言葉に対して戸惑いながらも「お言葉どおり、この身に成りますように」と答えました。このように真実に清く生きたいと思わされます。これから先、マリアは様々な苦難を経験することになります。特に、これからおよそ30年後、愛する息子である主イエスが十字架におかかりになったときに、この出来事をどのように受け止めたのでしょうか。マリアは幼き日と同じ聖なる応答ができたのでしょうか。こうした苦難の度に、きつとマリアは「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」というガブリエルの言葉に思いを巡らしていたのではないかと想像します。というのも、この「おめでとう」という言葉は直訳すると「幸いであれ」「元気であれ」という「心身ともに健康であるように」との挨拶なのです。この先、マリアが様々な苦難に直面したときに

は、天使ガブリエルが語った「おめでとう」という言葉に勇氣づけられたことでしょうか。同じように、あなたの人生にも大変なことがたくさんあるでしょう。しかし、だからこそ、天使ガブリエルは語るのです。「おめでとう、恵まれた方。元気であれ。幸いであれ。主があなたと共におられる。だから大丈夫」。今、目の前に悲しみや辛さに呻くような状況があったとしても、闇を光に、悪を善に変え、罪に満ちた人間の心を愛に満ちた聖なる心とするために、クリスマス夜の夜、ベツレヘムの馬小屋に救い主イエス・キリストはお生まれになったのです。この恵みを今日も覚えたいのです。神にできないことは何一つありません。私たちは聖なる者となることができます。神を愛し、隣人を自分のように愛することができると。あなたはそれを信じているか。私たちがガブリエルに問われています。

アーメン。主イエスよ来てください。覚悟と決意を持って、神の言葉を受け入れていきましょう。「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1：38）。

## 『私たちの造り主』

説教

イザヤ書29章15節～16節

ローマの信徒への手紙9章19節～29節

岸 俊彦

ローマの信徒への手紙9章で、パウロは3つの問いを取り上げます。「神の約束は無効ではないか」「神の側に不正があるのではないか」「神の意志に逆らっても無駄ではないか」。結局これらの問いは神に対する口答えです。厳しく言えば、神に反抗する人間的な思いから出る問いです。

荒野の40年、神の選びの民イスラエルは眩き、不平不満を募らせました。モーセも神に対して口答えしました。預言者も、ヨブも、キリストの弟子たちも、パウロも同じです。

「ああ、人よ、神に口答えするとは、あなたは何者か」（ローマ9:20）。

しかし、神は問答無用と切り捨てたりしません。語る神ですが、聞く神です。問いや疑いに答えてくださる神です。

パウロは神の言葉である聖書に基づいて答えます。陶工が陶器を

造るように、私たちは土の塵から造られたものにすぎません。陶工の腕次第で陶器はどのようなになります（イザヤ29:16）。

どのような器であろうと、その器に何を盛るかが大事です。神の怒りを盛るのか、それとも神の憐れみを盛るのか。それによってわたしたちは神の御業を現すことができます（ヨハネ9:3）。私たちがからは計り知れない神のご計画の中で、神は私たちを御心のままに用いてくださいます。

罪人である私たちは、もともと神の怒りの器です。パウロが嘆き悲しむほどにキリストを拒むイスラエルの民（ローマ9:2）と変わりありません。「怒りの器として滅びることになっていた者たち」（9:22）です。それにもかかわらず、神は「寛大な心で耐え忍ばれました。御自分の豊かな栄光をお示しになるため」（9:23）です。神がその憐れみを私

たちに注いでくださって、怒りの器を憐れみの器に変えてくださいます。神の憐れみが私たちを悔い改めに導いてくださるからです（2:4）。「わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」（5:8）とパウロが語るところです。

キリストが実現してくださった神の愛と憐れみにより、「神はわたしたちを憐れみの器として、ユダヤ人からだけでなく、異邦人の中から召し出してくださいました」（9:24）。ローマ教会ではユダヤ人と異邦人が一つとなって礼拝しているではありませんか。パウロが開拓したガラテヤの諸教会も同じです。「あなたがたは皆、真実によって、キリスト・イエスにあって神の子なのです。キリストにあずかる洗礼を受けたあなたがたは皆、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシア人もありません。奴隷も自由人もありません。男と女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからです」（ガラテヤ

3:26～28）。

背信の民ですら神の憐れみによって、神に召され、主に立ち帰って、悔い改めて、まことの主を礼拝する民となるのです（ローマ9:25、26、ホセア2:1、25）。本来神の民でない異邦人が神の憐れみにより、神の民とされました。終わりの日、神の民イスラエルはキリストを信じる民に変えられるに違いありません。

国家としてのイスラエルは滅亡しました。しかし、神が残してくださった少数の民によって、神の言葉は伝えられました（イザヤ1:9、10:22、23）。民を救い出し、生かす神の言葉はキリストに実現しました。「福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力」（ロマ1:16）です。

この福音を信じる少数の者を神は残してくださいました。そのおかげで、パウロが伝え、代々の教会が伝えてきたキリストの福音によって、私たちはキリストのものとしていただいています。

## 牧師の書齋から

このところ、特養で生活している95歳の父から毎日電話があります。携帯からの電話です。こちらが出てても無言のことが多く、通話できません。妻は、暫く呼びかければ出ると言うのですが、たまたま通じただけでしよう。施設でコロナの感染者が出たため、しばらく面会もできていません。

弟に連絡をとったところ、同じような電話がかかってくるのとこのところ、同じ

とでした。ワンプッシュで携帯はかかるけれど、携帯が使いこなせなくなつたのか、それとも耳がますます遠くなつたのか。以前から補聴器の調子が悪いと言っていました。調べれば問題ありませんでした。

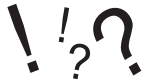
た。従姉2人は、叔母が医者に行く時に付き添っているとのことでした。上は76歳、下は72歳。自分より年上で少し驚きました。叔母は要支援2、父は要介護4。ともかく連絡がとれて、それなりに話ができ一安心。高齢でそれぞれ大変ですが、父が一番大変かなと思いました。突然の電話で、叔母も従姉も父が亡くなつたのかと思つたそうです。

たまたま通話できました。91歳の妹の心配でした。夫はかなり前に亡くなり、子はおらず一人暮らしです。父に言わせると姪が面倒をみているとのことでした。「可哀想だ、可哀想だ。このホームに入れてやりたい」と繰り返すばかり

調べて叔母と従姉2人に連絡しました。電話口で叔母はしっかりと声で懐かしそうに話してくれました。リウマチだと分かり、薬のおかげで症状も落ち着いて、週2日ヘルパーさんも来てくれて何とか生活しているとのことでした。

最近、父と繋がった折りは、「玄関の植木に水をやるよう弟に言うように」とのことでした。(岸俊彦)

## 個人消息



## 掲示板



- 降誕節第3主日礼拝  
1月8日(日) 午前10:15  
説教「神の御業」ヨハネ9:1-12  
上野峻一教師
- 成人祝福式 1月8日(日) 礼拝後
- 降誕節第6主日礼拝  
1月29日(日) 午前10:15  
説教 種房正勝教師

## 編集後記



- ▽今年の抱負は、①十分な睡眠をとる、②筋肉量を増やす、です。加齢による体調不調を解消するためがんばります。(酒井)
- ▽私はダイエットが目標です(笑)(無理) (尾崎)
- ▽「QOL」充実のためにも、今抱えているこの股関節の痛みを何とかしたいです！(沢田)
- ▽日に日にかたくなになる心と体を柔和に変えていきたいです。(原由佳理)

「栄 光」2023年1月号  
日本基督教団 経堂北教会  
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11  
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038  
牧師：岸 俊彦  
編集：栄光編集委員会  
Email：kyodon@nifty.com  
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp